

JRの業務外注化と非正規雇用化に反対するニュースです。感想や意見、現場の情報をお寄せ下さい。dc-info@deluxe.ocn.ne.jp

過労死うむ乗務員改悪撤回を 勤務制度

「運転士居眠り」報道

原因はダイ改合理化・労働強化



8月14日から15日にかけて、「JR外房線で運転士が居眠り運転」という形で、テレビなどで報道がありました。しかし、7月25日に起こったことであり、列車運行上の支障もありませんでした。にもかかわらず、乗客が背面から撮影した動画がネット上に投稿されたことで、20日も経った後に大々的に報道されたのです。

「居眠り」レベルの問題ではない

これをきっかけに職場と乗務員がたたかれています。しかし、職場で起きていることは「居眠り」レベルの問題ではありません。過労死さえ生み出される労働強化が強制されているのです。

この間、会社はダイ改で乗務員への労働強化を繰り返してきました。

人間が一番眠い時間に起きて乗務しているにもかかわらず、睡眠時間もまともにも与えない。泊勤務である乙行路は日勤並に長大化し、退勤

時間が昼の12時を超える行路も増えています。日勤の拘束時間も軒並み伸びています。

乗務員勤務制度改悪撤回・行路緩和を

今年の3月ダイ改で乗務員勤務制度改悪が強化され、朝・タラッシュ時間帯に短時間行路が作成されました。乗務するのは支社課員など本来の乗務員ではない人たちです。

全体の行路数を変えずに短時間行路を増やしたあたりを受けて、交番内の行路はさらにきつくなっています。しかも現状では短時間行路に乗務する人が不足、本線乗務員を乗務させなければ仕事回らない状態なのです。

乗務員勤務制度改悪で、限界を超えた労働強化が進行しています。3月ダイ改以降だけでも、オーバーランや停車駅通過が起っています。

※

8月29日に横浜市営地下鉄ブルーラインで起きた脱線衝突事故（写真）は、「4時間仮眠で18時間勤務」による運転士の睡眠不足が原因として指摘されています

今後、改悪乗務員勤務制度の本格的な適用となれば、JR東日本もさらなる労働強化となります。その先は過労死と鉄道の安全の崩壊です。必要なことは行路緩和であり、乗務員勤務制度改悪・ジョブローテーション提案の撤回です。